

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 32 号

平成 8 年 10 月 5 日発行

編集者 大野 良樹

発行 三水会（北里大学
水産学部同窓会）

事務局 〒246 神奈川県横浜市瀬
谷区瀬谷5-22-1石井方
☎ 045-303-3135

振替口座 第一勧業銀行
大手町支店
008-1182388

水産学部を振り返って（前水産食品化学講座教授 佐藤美和）
若手研究者奨励金を受賞して（10F・森山 俊介）
三水会関東地区親睦会に参加して（3A・山本 史郎）
会員だより①（4A・湯野川恭）会員だより②（7F・猪狩儀一）
北海道地区懇親会開催報告（19A 小野田 進）
第23回体育祭開催（体育実行委員長 佐藤 勝彦）
平成 8 年度三水会総会開催
from 事務局 ※三水会代議員改選について ※北里大学同窓会講演会の開催

関東地区親睦会



関東地区親睦会

水産学部を振り返って

前水産食品化学講座教授 佐藤 美和

北里大学を辞めて四ヶ月、現在の地に居を定めて一ヶ月になる。後期十月からは女子学生相手に少し教鞭をとるつもりだ。男子学生中心の四十数年間とは異なるが老化防止のためにも余り激せず楽しく過ごすつもりだ。現実はそのなにごとに甘くもないかも知れないが。

昭和四十八年の学部開設と同時に三陸へ赴任したが、小生にとっては出生以来九ヶ所の地で、人生の約三分の一、二十三年余を過ごすことになった。冬の厳しさを除くと住み易く、また研究、教育の場として好



チリー・ヴァルディビア市にて

適地であったためだろう。しかし初めて三陸の地はまさに陸の孤島、僻遠過疎の地。若者対象の大学が存続し得るだろうか大いに懸念を抱いたものである。当時の学生諸君も同様な想いだっただろう。住めば都とはこのこと、直ちに順応し三陸の自然を大いに楽しんだ。特に学生諸君と崎浜のお寺の上の畑地一帯で下駄や石斧、縄文土器の破片の数々を集めて歩いたことは格別印象深い。それまで無縁だった考古学の一端に接することができ、日本の古代の一部に触れた気がした。近年脚光を浴びている青森の三内丸山遺跡の発見、発掘。大正時代すでに発見されていた大船渡市の大洞貝塚は縄文期の考古学上の画期的発見とされているが、それらと同時代の遺跡であろう。（これらについては大場先生が詳しいが。）広島の地に住んでいた時の知見とは大いに異なり、縄文期の東北の地は大いに繁栄し、三陸も往時は賑やかな集落が散在し食住の環境の整った地だったようだ。遺跡の場

所から当時は地球規模の温暖化と海面の上昇があったようである。

三陸の自然はさておき開学期の教育環境、特に設備面では初期の学生諸君にとって不満が大きく、改善に向けて大学側と幾度も折衝が持たれたのを記憶している。不満はあったが当時の学生諸君は卒業論文の研究面でも意欲的で元気がよかった。一十回生の諸君は未だ研究室の整備が十分ではなく苦勞しながらの実験だったが、お互いによく努力したものである。小生も今よりは若く衝突も再々で本気で言い争ったこともある。大変迷惑をおかけしたが振り返ってみると想い出深く、これからの生き方では恐らく味わえないことだろう。北里大学は北里研究所以来の伝統であろうが、非常に研究活性度の高い大学であり、小生のような怠け者でも研究成果がある環境に置かれ、大学の一員として過ごせたことを感謝している。

この悪文に苦勞しているが、三水会は今年の三月で第二十一回の卒業生を迎え会員数も増え、益々発展しているようで慶賀にたえない。学生生活を水産といった専門分野で切磋琢磨しあい、遊びに興じた仲間が学窓を離れた後も職場や社会の動向に

ついて語り合い、知らせあう場としての会誌の発行は会員相互の向上、慰め、励まし、助け合いの場として大いに役立っていると思う。本誌が永く存続し充実したものとなり活用されることを期待している。

会員諸君、諸嬢の健康と隆昌を心から祈って、最後に七月にやっと一段落した住まいの地、広島についてお伝えする。

毎年八月六日に原爆投下の地として全国に放送されるので少しは御存知だろうが、久し振りの当地は街も様変わりして戸惑うことも多いが、緑が多く落ち着いた街だ。友人とは嬉しいもので旧制中学や大学の在広島島の知人にあちこち案内され、行動範囲もこの一ヶ月で大いに広がった。ただ夏の暑さには閉口している。エアコンのお世話になりっぱなしだ。特に夕方は風（ナギ）といって瀬戸内の海は波が失くなり、風もパツパツと止まり、陽が落ちて涼しさを待ち望んでいる者に蒸し暑い一時をもたらす。これは忘れていた自然環境で音をあげている。先年のアジア大会、今年の国体の開催地の故か、新しいホテルや体育施設が整いつつあるようだ。少し遠い地だが近くにお越しの節にはお立寄り下さい。



若手研究者奨励金を受賞して

森山 俊介 (10F)

この度は、北里大学同窓会若手研究者奨励金をいただきまして誠にありがとうございます。この場をお借りいたしまして、同窓生諸兄ならびに関係諸氏の方々に對し厚く御礼申し上げます。

私はこの四月から北里大学水産学部にて専任講師として籍を置き、海洋分子生物学講座の川内浩司教授のもとで、魚類の成長促進機構の解明を目的として、魚の成長ホルモン及びインスリン様成長因子に関する研究を行っています。

近年二百海里体制が定着し、タンパク食料源として魚介類を安定供給するために「増やしながら獲る漁業」、すなわち、水産増養殖の果たす役割が大きくなっています。増養殖の重要な課題は、魚を効率よく成長させる、そのためには成長をコントロールする内分泌学的側面から成長促進機構の研究が必要であります。魚類の成長促進に関する研究は一九三〇年代から始まり、近年は分子や遺伝子のレベルにおける研究が進

展し、脳下垂体から分泌される成長ホルモンが重要な役割を果たしていることが判ってきました。成長ホルモンはその名の示す通り動物の成長を促進します。このホルモンは肝臓に働いて、そこで生産される第二のホルモンであるインスリン様成長因子を介して成長促進作用を発現すると考えられています。従って、魚類の成長ホルモンとインスリン様成長因子の同定と生理作用の解明は、学術上および水産上極めて重要な課題であります。

成長ホルモンは微量成分であるため、天然ホルモンの増養殖への応用は期待できませんでした。近年の遺伝子組換え技術の発達により、魚類のホルモンを大腸菌を使い大量に調整することが可能になりました。これまで、サケの成長ホルモンを精製して、大腸菌の組換えサケ成長ホルモンを生産することに成功しました。そして組換えサケ成長ホルモンが天然ホルモンと同様に魚類の成長を促進することを明らかにしました。

一方、魚類のインスリン様成長因子に関する研究は、近年ようやく始まったところであります。我々のグループは、サケのインスリン様成長因子を同定し、組換えインスリン様成長因子の大腸菌を用いた量産技術の開発に成功しました。その結果、魚類でも、他の脊椎動物と同様に、成長ホルモンにより肝臓でインスリン様成長因子の産生が促進されることを明らかにし、魚類の成長には成長ホルモンとインスリン様成長因子を軸とした内分泌系が重要な役割を果たしていることを示しました。

成長ホルモンの増養殖への実用化のカギは投与法の開発であります。成長ホルモンを経口的に摂取させる経口投与が実用的であります。成長ホルモンはタンパク質であるため、消化管で消化され失活する懸念があります。そこで失活を防ぐため、胃では溶解せず、腸で溶解できるように工夫した成長ホルモン剤を調製しました。この腸溶性成長ホルモンをサケに摂取させると、消化されることなく体内に取り込まれ、さらにサケの成長を促進させることを明らかにし、このホルモンの経口投与が水産増養殖に応用できることを証明しました。

このように魚自身の成長ホルモンおよびインスリン様成長因子を用いた研究により、魚の成長を支配するホルモン機構の一部を明らかにし、また、水産増養殖への応用の可能性を実証しました。現在は、ホルモンと受容体(リセプター)に関する研究を行っています。

さて、海洋分子生物学講座は、今年の四月に水産利用学講座から講座名が変わりました。川内浩司教授、高橋明義助教授および小生と大学院生二名、四年生十八名の合計二十三名で研究を行っています。生物の誕生から子孫を残すまでプロセスはヒトも魚も共通であり、脳と脳下垂体で作るホルモンで調節されています。また、ホルモンの研究は医薬品や養殖技術に波及効果を与えます。さらにホルモンを詳細に解析すると生物進化の解明にもつながります。そこで我が講座では、おもに魚類の脳下垂体ホルモンについて様々な研究を行っています。現在も、世界各国の研究者と共同研究を行い、魚類のみならず無脊椎動物のホルモンの探索も行っています。最後に、三水会の益々の御発展と会員の皆様の御活躍を祈念致しまして、稿を終了させていただきます。

「三水区関東地区親睦会」に参加して

山本 史郎（3A）

毎年、我が家の子供達が楽しみにしている三水区関東地区親睦会への参加。今年は七月二十七日（土）に開催され、河口湖フイールドセンターでのバーベキュー大会でした。集合時間は現地に八時半。午前中は班に別れガイドウォークとペーパーウエイト作りをそれぞれ体験。子供達と共に真剣になった親達が、出来映えを見せ合いながら評論家になっていたとか。

かくいう我が家は五時半には家を出たものの、行楽ラッシュに捕まってしまう九時の時点でまだ八王子市内をウロウロ。「バーベキューを全部食べられてしまう」と中央高速で行くのを諦め、道志川沿いの国道に迂回し、やっと昼に現地到着。中には、午前二時に栃木の家を出発した強者も。「もっと早く出てこなければ」とか「三水区に対する思いやりが無い」とか云われながらも気持ちだけは目の前のビールへ。さっそく、バーベキューを食べながら親睦を深めました。

さて、今回親睦会に参加したメンバーは写真（表紙）のように総勢七十名。都心から遠かったためか少なめの参加者。でも、子供達は元気！元気！午後は、午前中に作成した鳥笛や参加賞等を手に子供達が「スイカ割り」やネイチャーガイドの白石先生による「ようこそ森へクイズ」に参加したり、蝶や昆虫採集で楽しんだりしていました。子供達は、森の中に目印が何ヶ所あるかを当てるクイズに真剣に取り組んでいましたが、ゴミを目印と間違えて数えたりしていました。ゴミは必ず持ち帰りましょう。アツという間に時間が過ぎ、来年の再会を約束して午後三時半解散となりました。

とかく「排他的である」とか「私物化している」といったことを耳にする三水区関東地区親睦会ですが、毎年、出席することを楽しみにしている私や事務局の方々には、その様な考え方は全くないといって過言ではありません。たしかに、現在の親睦会は事務局の方々の努力によって

子供たちを楽しませることが基本のファミリー的な親睦会となっており、親睦会というより「OB家族会」または「OBジュニアの会」といった感があります。私にはこの運営方法が本当の意味での親睦会だと思われるのですが。したがって参加者が決まってしまう、初めて参加される方には溶け込むのが大変かもしれません。が、親子三代での参加や会社の同僚を連れての参加も見受けられます。子供のことや職場のことでお悩みの方は一度参加されてはいかがでしょう。学生時代は息抜きだけを考えていた私を含むOB連中も家庭では良きパパ、会社では中間管理職となっており、良きアドバイスが得られるかも知れません。ただし、あまり期待はしないで下さい。元が元です。から。勿論、子供達をどこかに連れて行こうと考えてはみるものの計画倒れになっている方等も参加されてはいかがでしょう。子供達に喜んでもらえること請合いです。そして毎年参加するキッカケを掴んで下さい。年に一回、三陸で生活（勉強？）した者同士が集まって昔話に華を咲かせるのも楽しいものです。

第三者的に見て「排他的である」

とか「私物化している」等といわれる理由の一つに十年以上も殆どメンバーの変更もなしに事務局が運営されていることもあげられると思います。初期の水産学部卒業生は学生時代、クラブにしても設立から運営まで自分達で考えてきましたが、最近の卒業生はどちらかというと人任せの人が多いように思われます。この氣質の違いが事務局運営メンバーの構成にも表れているのではないのでしょうか。事務局も趣向を凝らした企画を立て、去年は「三陸ツアー」そして毎年「ニジマス釣り」や「賛立て」といった子供達が楽しめる親睦会を開催しています。しかし、事務局内部でもマンネリ化を感じていると思われ、どなたか事務局を引き受ける若いOBの方がいません。か。三水区を差し上げますというのはいき過ぎですが、役員交代の時期が来ているように思われます。

集まれ、親睦会！！

来たれ、若きOB！

頑張れ、事務局！

勝手なことを書きましたが、旧交を深められたり子供が満足できたりと我が家族にとっては楽しい半日でしたし、これからも親睦会の開催を楽しみにしております。

会員だより①

秋風が吹くこのごろですが、当地沖縄はまだまだ暑い日が続いています。

現在、私は沖縄本島の近くの伊江島という小さな島でダイビングサービスの仕事をしています。ダイビングのガイドやダイビングの講習が主な仕事です。

ここところ数年のダイビングブームのおかげで、最近ではダイビングがビジネスとして成り立っていますが、私が三陸にいたころには考えられなかったことです。

三陸では、井田先生の研究室で魚の分類を教えていただきました。また所属していた潜水部の顧問も井田先生でした。井田先生には本当にお世話になり感謝の気持ちでいっぱいです。ダイビングの話にもどりますが、今ではダイバーの数も多くなり、フィッシュウォッチングという言葉も定着してきています。いわゆる一般のダイバーが、ニシキテグリやアケボノハゼを見たいというのが普通になってきています。

湯野川 恭 (4A)

このように魚の知識を持ったダイバーが増えると、中には研究者並に魚の事を知っているダイバーもいます。ガイドをする私たちも、もっとも魚の事を勉強しないといけなくなってきました。

魚の分類が役に立つ仕事はあまりないと思いますが、現在の仕事ではとても役に立っています。

会員だより②

私が住んでいる気仙沼市は、北里大学水産学部のある三陸町より国道四十五号線を南下して車で二時間弱、宮城県の北端に位置しています。基幹産業は漁業で産業の約八割が何らかの形でそれに依存しています。最近の水揚げ量と加工量の多い鮫を使ったふかひれ寿司やラーメン、その皮を使ったなめしがわ製品、また世界一の鮪漁船の基地であることから、鮪の刺し身等を各地に特産品と

伊江島の海を紹介してみます。島の形は東西に細長く丁度ピーナッツの形をしており、北の方の海はドロップオフの海で二百メートルの等深線が島のすぐ近くにありますが、南の方は砂地の遠浅の海で、そこにパッチ状のリーフがあるといった感じです。

このように環境の変化の多い海のため、魚類相も変化に富み、毎日ダイビングをしていても全くあきることとはありません。自然を相手に、学生時代の勉強が生かせ、全く退屈のない仕事をしています。

猪狩 儀一 (7F)

してアピールしています。

当店は安政四年より海苔の養殖と官制になるまで塩田事業及び元売りをを行い、また前浜の海産物の加工を手がけ現在は海産物の卸・小売りが主な商いになっています。

店で私は主に原材料の仕入れと加工を行っています。一年間の主な仕入れの流れを紹介します。海苔は金額及び扱い量が一番多く、入札は十一月から始まります。お歳暮、年始

を間にはさみ、だいたい三月半ばまで続きます。宮城県の塩釜が例年ですと全国で最初に入札が始まりそれに続いて九州・内海(瀬戸内地区)・中部(三重・愛知)地区・千葉など各地で入札が始まります。野菜と同じで毎年作柄が違いますから年間必要な原料を各地の同業者と連絡を取合い欲しい物が出品されそうな時には各地に出向いて仕入れをします。ですから会社と家の大掃除は十月末には終わらせています。

また十一月～一月にはアワビの開口があり落札した浜に水揚げされたアワビを引き取りに行きます。これは粕漬けと福多女の原料になります。一年々量は減って来ています。一月～三月は三陸わかめが各浜で水揚げされ、二月～三月はボイル昆布、三月～五月には雑海藻と言われている「ふのり」「すき昆布」「まつも」「天草」等の入札があります。六月～八月は「はや」の美味しい時期で当店では塩辛、燻製等に加工します。当地方では同じ時期に「うに」の開口も行われ前もって入札で落札した浜に水揚げされたうにには全て買い取り甘塩の塩うになどに加工します。ところで、前記の海産物は浅海漁業で水揚げされる三陸の海産物で

すが、この他に「鮭」や「イカ」「サ
ンマ」「カツオ」なども多く水揚げ
されています。学生当時、釣りぐら
いで私はほとんどこのようなことは

北海道地区懇親会開催報告

気にも留めていませんでしたが、最
近は年間を通して様々な海産物が水
揚げされている事に驚き、改めて三
陸の海の豊かさに感謝しています。

小野田 進 (19A)

また、ビールや日本酒がゆでたての
根室特産ハナサキガニとともに振る
舞われるとお互いの思い出話にも華

第23回体育祭

平成八年七月二十七日、北海道地
区懇親会が東京理科大学総合研究所
付属海洋生物研究施設（根室市水産
研究所）において、海辺でのバーベ
キューという趣向で行われた。参加
者は十七名、家族づれもみられた。
また、同研究所長は平成六年に北里
大学水産学部を退職し、現在は東京
理科大学教授の橋高二郎先生である。
今年の根室の夏は、日照不足で農
作物への影響が心配されるほど、曇
りがちな日が続いていたが、当日は
日中日が差し、過ごしやすい穏やか
な天候に恵まれた。会を開くにあた
り、橋高二郎先生をかこんで自己紹
介が行われ、各々の学生時代の話や
現在の状況などが報告された。顔合
せが素早く済むと、取りたてのホタ
テやホッケ、トキシラズ、などがこ
れまた素早く炭火で料理され、根室
の味覚に舌づつみすることとなった。



が咲き、それに近所に住んでいる地
元の漁師さんも加わり、大いに盛り
上がりを見せた。そして東京理科大
学客員研究員として同研究所を訪れ
ている米国水産庁ユディアック研究
所次長のブラッド・ステイブンス
夫妻によるバイオリンの演奏が始ま
ると、一気に宴もたけなわとなり、
それは、沖合いにはっきりと見える
水島（北方領土）にまで届きそう
な音色と歓声であった。

体育祭実行委員長 佐藤 勝彦

去る五月二十五日、二十六日の二
日間、第二十三回体育祭が、水産学
部体育館および同グラウンドにて盛大
に開催されました。

競技種目は、バレーボール、バス
ケットボール、ドッジボール、ソフ
トボールの四種目で、駅伝について
は、本年度も参加者が少ないと予想
されたため中止しました。

全体的にエントリー数は少なめで
したが、個々のプレーは、とても気
合が入っていたようでした。

競技が始まると複数の競技種目に

エントリーした人が多く、予定通り
ゲームを進行するのに苦労しました。
また、会場準備に手間取り、ゲー
ム開始が遅れるというハプニングも
あって一時はどうなるかと心配
しましたが、みんなの協力があった
おかげで何とか乗り切ることができ
ました。

ただ一つあまり上手くできなかった
ことがありました。それは、私が
バスケットの審判をした時のこと
ですが、ルールが複雑なことで不馴
れなために、ジャッジに時間がかか
たり、ミスジャッジをしてしまった
ことです。来年、審判をつとめられ
る方は、多少練習しておくことをお
すすめします。

なにはともあれ、二日間にわたり
開催された体育祭は、一人のケガ人
もなく無事終えることができました。
体育祭に参加された多くの方々、
そして、実行委員として、陰でささ
えてくれた方々、大変お疲れさまで
した。

☆

☆

「平成八年度総会開催」

去る五月十九日（日）午前十一時より、白金校舎会議室において、平成八年度本会通常総会が開催され、本年度の事業計画、予算等が審議、決定されました。総会は、代議員本人二十人、委任状出席十七人の計三十七人の出席のもとに開催され、七年度事業報告、決算についての報告を受け、これを承認した後、会報の発行、全学同窓会講演会の開催等と内容とする平成八年度事業計画、予算案について協議を行い、原案どおりこれを承認しました。総会において承認された昨年度の決算、本年度の事業計画・予算は次のとおりです。

平成八年度事業計画

- 一、会報の発行
同窓生の動向、学部の実況、各種の情報等を内容とした会報を二回発行する。
- 二、「水産学部だより」の配布
本学水産学部の発行する「水産学部だより」を増刷し、全会員に配布する。
- 三、会員の現況の把握
全学同窓会と連携し、不明会員の

調査等名簿情報の正確性の向上に努める。

四、同期会等の助成

同期会、講座別同窓会等卒業生の集会の費用の一部を助成する。

五、親睦会の開催

関東地区会員を主な対象とした親睦会を七月に山梨県富士吉田市において開催する。

六、全学同窓会講演会の開催

各キャンパスを順次巡って開催している全学同窓会講演会を、全学同窓会と共催で三陸において開催する。

七、懇談会の開催

大学、水産学部在学生との懇談会を開催し意見交換を行う。

八、学友会助成

クラブの活動費および大学祭、体育祭費用の一部を助成する。

九、就職ガイダンスの開催

各分野の卒業生による就職ガイダンスを水産学部生を対象に三陸校舎にて行なう。

十、漁船海難遺児育英会寄付

漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し寄付を行う。

平成 7 年度 収 支 決 算 書

支 出 の 部			収 入 の 部		
科 目	予算額	決算額	科 目	予算額	決算額
1. 事業費	3,890,000	3,676,745	1. 部会助成金	4,635,000	4,635,576
(1) 会報発行費	1,230,000	1,132,538	2. 前年度繰越金	305,576	305,576
(2) 学部だより配布費	190,000	193,743	3. 預金利息	50,000	13,657
(3) 同期会等助成費	100,000	108,000	4. 雑収入	900,000	767,500
(4) イベント開催費	1,770,000	1,729,038			
(5) 大学・学生との懇談会	250,000	169,646			
(6) 学友会助成費	200,000	200,000			
(7) 就職ガイダンス費	100,000	93,780			
(8) 漁船海難遺児育英会寄付	50,000	50,000			
2. 運営・管理費	1,810,000	1,672,721			
(1) 印刷・通信費	200,000	152,863			
(2) 会議費	400,000	447,987			
(3) 総務費	200,000	137,687			
(4) 事務局	860,000	840,484			
(5) 慶弔費	50,000	20,000			
(6) 外渉費	100,000	73,700			
3. 予備費	190,576	372,267			
(1) 次期繰越金					
合 計	5,890,576	5,721,733	合 計	5,890,576	5,721,733

《大学援助特別会計》

学友会助成のクラブ助成金の申請がなかったため、本特別会計に50,000円繰入れ。

平成 8 年 度 予 算

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
1. 事 業 費	3,880,000	1. 部 会 助 成 金	4,710,000
(1)会 報 発 行 費	1,230,000	2. 講演会開催助成金	1,000,000
(2)学 部 だ よ り 配 布 費	200,000	3. 前 年 度 繰 越 金	372,267
(3)同 期 会 等 助 成 費	150,000	4. 預 金 利 息	10,000
(4)親 睦 会 費	500,000	5. 雑 収 入	160,000
(5)全 学 講 演 会 開 催 費	1,100,000		
(6)大 学 ・ 学 生 懇 談 会 費	250,000		
(7)学 友 会 助 成 費	200,000		
(8)就 職 ガ イ ダ ン ス 費	200,000		
(9)漁船海難遺児育英会寄付	50,000		
2. 運 営 費	1,900,000		
(1)印 刷 ・ 通 信 費	220,000		
(2)会 議 会 費	470,000		
(3)総 務 費	200,000		
(4)事 務 局 費	860,000		
(5)慶 弔 費	50,000		
(6)外 渉 費	100,000		
3. 予 備 費	472,267		
合 計	6,252,267	合 計	6,252,267

From 事務局

三水会代議員の改選について 一代議員推薦のお願い

早いもので前回の改選から3年近くが経ち、来年度総会において、代議員・役員の改選が行われます。つきましては、代議員の推薦（自薦・他薦）を下記により受けつけますので、同封のはがきに、氏名、卒業年、学科、卒論講座名、住所、連絡先電話番号、他薦の場合は推薦者名をご記入のうえ、事務局あてお送りください。FAX でも結構です。

代議員資格：三水会正会員 推薦受付期限：平成9年3月末

三水会事務局 〒246 横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1
TEL・FAX 045-303-3135

From 事務局

北里大学同窓会講演会の開催

来る平成8年10月13日（日曜日）午後2時より、三陸中央公民館において、三水会・北里大学同窓会主催、水産学部および三陸町後援の講演会を開催します。

今回は、楽しい気象解説で皆様おなじみの人気気象学者であり、理学博士の倉嶋厚先生を講師に、『気象のものをし、人生のものをし』という題でお話しいただきます。

先生のプロフィールをご紹介します。先生は大正13年長野県でお生まれになり、昭和24年、現気象大学校を卒業後、気象庁に入庁。主任予報官、札幌気象台予報課長、鹿児島気象台長を歴任され、NHK気象担当解説委員を経て、現在はフリーのキャスターをされております。著書には「暮らしの気象学者」等、多数ございます。

前々回の畑正憲先生、前回のダニエル・カール先生同様、多数のご参加をお待ちしております。

尚、講演会終了後、翌週の19日、20日に開催されます。第24回漁火祭のプレセレモニーを催しますのでこちらもおあわせてお楽しみください。

お問い合わせは、三水会事務局（TEL: 045-303-3135）までお願いします。